

2021年11月29日～30日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温と塩分の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

大気からの冷却により鉛直混合が進み、噴火湾の湾奥では海面から深度30m前後まで、湾中央から湾外にかけては海面から深度50m前後まで、12℃程度のほぼ均一な水温になっています。平年の水温と比較すると、胆振沖のSt.05の150m以深が2～3℃高いことを除けば、概ね平年並みとなっています。

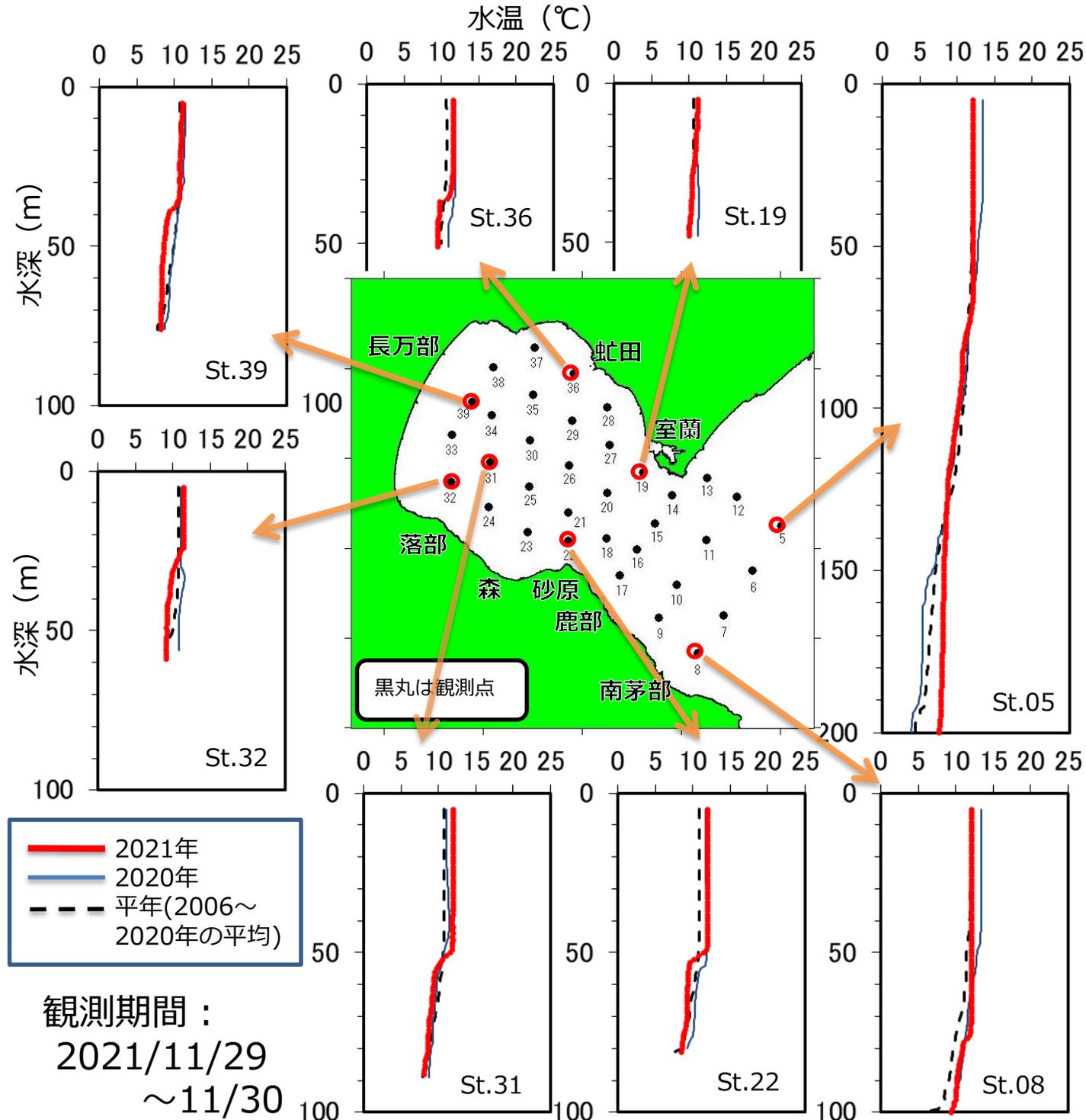
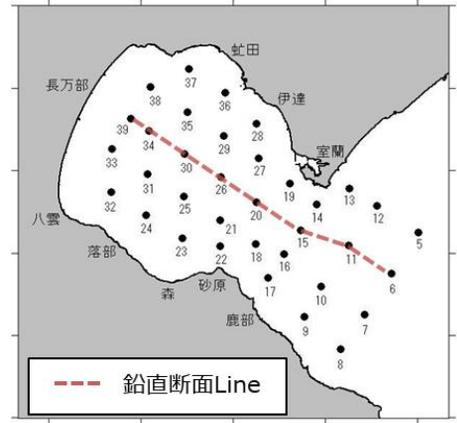


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水温、塩分、密度の鉛直断面分布】

9月では中層から海底付近にかけて分布していた津軽暖流水（水温6℃以上、塩分33.6以上）は、その後を拡大し、11月になると鉛直断面の全層を覆っていました。このため、9月に噴火湾内の深度20m以浅に見られた塩分の低い夏季噴火湾表層水は湾外に排出され、大規模な水塊交換が起きていました。

一方、気温の低下に伴い海表面が冷却されて鉛直方向の海水の混合が進み、11月の深度50m以浅は水温12℃前後の均一な水に覆われています。今後、さらに気温が低下すると、噴火湾内は海面から海底までほぼ均一な水になると予測されます。



9月の鉛直断面

11月の鉛直断面

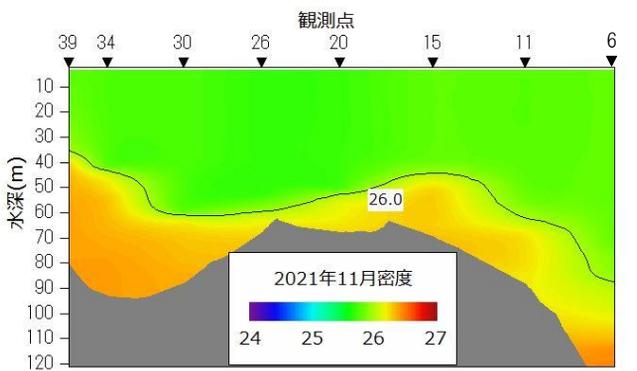
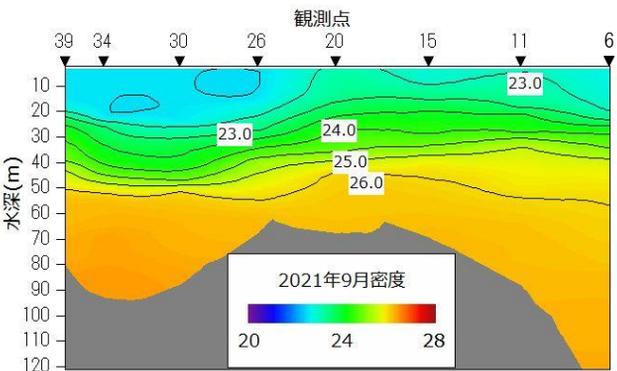
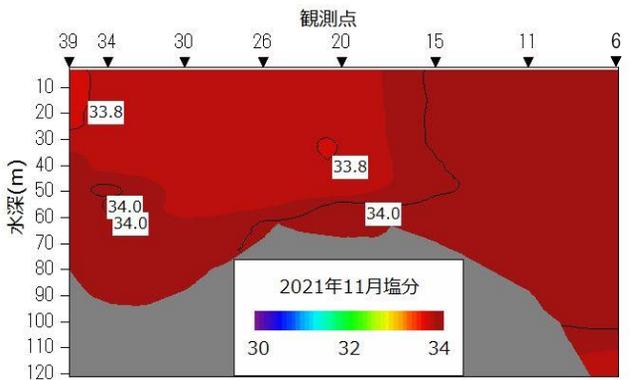
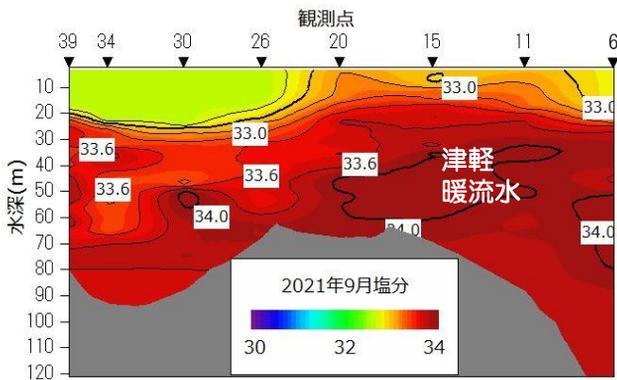
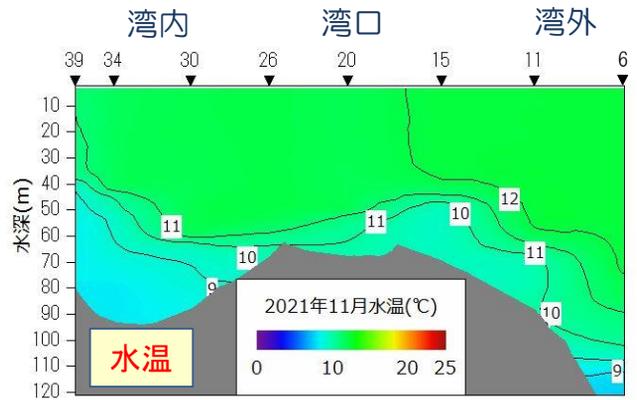
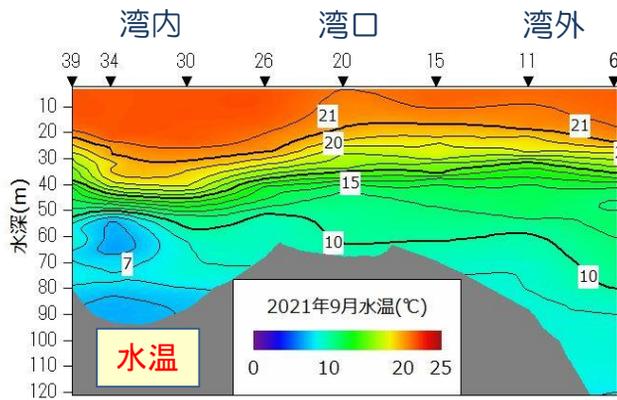


図2 水温・塩分・密度・溶存酸素の鉛直断面図（左：9月，右：11月）
鉛直断面の位置は右上図の赤破線を参照 上部の▼は観測点